

発行所：かつもとメンタルクリニック

〒543-0056 大阪市天王寺区堀越町10-13天王寺まつむらビル2F

TEL 06-6774-0525

編集・発行人：勝元 榮一

### クリニックの理念 思いやりのある暖かで信頼される質の高い医療を提供いたします

#### ＜統合失調症における認知機能障害について＞

こんにちは。6月に入り段々暑くなってきましたが、皆さん体調は如何でしょうか？先月は日本精神神経学会へ参加してきました。いろいろな講演、レクチャー、発表などがありました。私の専門分野の一つである統合失調症に関わるセッションに参加してきました。そのなかでも今回は統合失調症の認知機能障害に関する講演、レクチャーなどを中心に参加してきました。統合失調症の患者さんのQuality of Life (QOL：生活の質)に認知機能障害は大きな影響があると思います。そこで今月号ではこの「認知機能障害」にお話してみたいと思います。

#### 1. 統合失調症の症状

まず表1に統合失調症の症状を示します。統合失調症の症状は①陽性症状、②陰性症状、③認知機能障害、④感情の障害の4つの症状群に分けられます。患者さんによっていろんな程度でこれらの症状があり、そのために日常生活や社会生活などに支障を来したりします。

#### 表1. 統合失調症の症状

- ① 陽性症状：実際にはないものが見えたり、聞えたりする。実際にはありえないことを信じ込む。など
- ② 陰性症状：感情が乏しくなる。意欲が低下する。ひきこもり。など
- ③ 認知機能障害：集中力の低下。記憶力の低下。むつかしいことを計画立てて実行する。など
- ④ 気分の障害：うつ気分。希望を失う。死にたくなる。など



①から④の症状によって、社会生活・日常生活、仕事・学業、対人関係、身だしなみなどに支障をきたす。

#### 2. 認知機能障害とは？

陽性症状や陰性症状という言葉は患者さんやご家族の方もよくご存知であると思いますが、認知機能障害はまだご存知でない方も多いようにも思います。患者さんの中にも「何か記憶力が悪くなった。」、「物事に集中しにくい。」、「複雑な作業が覚えにくい。」などと自覚されている方もおられるのではないのでしょうか？これらが「認知機能障害」という症状にあたります。

統合失調症の症状では幻覚・妄想などの陽性症状は目立ちますし、わかり易い症状です。しかし陽性症状が治まっても「何かすっきりしない」とか、「うまく日常生活を送りにくい」と感じる方もおられるのではないのでしょうか？それは「認知機能障害」によるものである可能性があります。

#### 表2. 統合失調症における認知機能障害の原因

- ① 疾患そのものの症状
- ② 多剤大量処方や抗パーキンソン剤による薬剤の影響

#### 3. 認知機能障害の原因は？

認知機能障害の原因を表2に示しました。統合失調症では「ドーパミン仮説」という病気の原因が言われてきておりました。それは脳においてドーパミンという神経伝達物質が過剰に放出されることで幻覚や妄想などの症状が出現するというものです。ところが近年、このドーパミン仮説は表3のように大脳皮質ではむしろドーパミン伝達は低下し、そのために陰性症状や認知機能障害がもたらされていると修正されてきています。またドーパミン以外にもグルタミン酸やアセチルコリンなどの神経伝達低下なども関与し、前頭葉機能低下や認知機能低下をもたらしているのではないかと考えられています(表2-①)

#### 表3. 修正されたドーパミン仮説

- ① 大脳辺縁系ドーパミン機能亢進↑：幻覚・妄想
- ② 大脳皮質系ドーパミン機能低下↓：陰性症状・認知機能障害

また表2-②の統合失調症の治療薬である抗精神病薬の「多剤大量処方」や手の振るえやこわばりなど(錐体外路症状)に処方される「抗パーキンソン剤」(アキネトン、アーテン、ヒベルナ、ピレチアなど)による認知機能障害の可能性も見過ごすことのできない問題です。「多剤大量処方」により、元々低下している大脳皮質でのドーパミン伝達をさらに低下させてしまい、認知機能障害をより悪化させてしまうこととなります。また「抗パーキンソン剤」の副作用として「便秘、口の渇き、目のかすみ」などはよく知られていますが、脳におけるアセチルコリンの伝達を抑制し、